

広 報

は ん の 樹

Vol.127(10~12月)号



社会福祉法人榛桐会
さわらび医療福祉センター

～新年のご挨拶～

「新年あけましておめでとうございます」

「はんな・さわらび療育園」から、新たに呼称を換え「さわらび医療福祉センター」として、榛名の山懐から高崎市内の周囲に緑を残したここ浜川地区に移り、早いもので一年半を経過しました。移動に際しては職員の方々に数々のシミュレーションの労をしていただき、事故もなく移転することができました。ご父兄の方々にはそれなりにご心配をおかけいたしました。

榛名では、夫々に四季折々を肌で感じ、澄んだ空気のもと生活をしてきましたが、ここ高崎市内では、榛名とは比較できませんが、浜川公園の木々の緑が市内にいるのを忘れさせる環境と思っています。



理事長 鈴木 憲一

さて、日本国憲法25条第1項には「全ての国民は、健康で文化的な生活を最低限の生活を営む権利を有する」と規定し、第2項では、「国は全ての生活部門について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と規程しています。ことに社会福祉では、社会保障や公衆衛生とともに国民の生存権を保障する制度として捉えています。このような意味合いを込めて、当施設は「さわらび医療福祉センター」として新たな船出といたしました。ですから、当センターにおきましては、医療を担いつつさらに福祉にも目を向けて歩むという姿勢が求められているわけです。

勿論、当施設の創生期には、重度の身体障害を持たれる方々への対処・対応は手探りで、模索する時期もありました。医療的観点から見ても、福祉の眼で見ても手探りの状況であったことは、当施設の記録からもうかがえます。それは、福祉の人材であったり、医療の担い手の問題であったりなど、その他諸々の事情があったという事は当時の記録から読み取れます。

曲折をへて、センター長以下職員の方々のお陰で、令和の大移動が恙なく終わり、今こうして現在に至っています。

職員の方々のお力で入所者の方々やデイサービスへ通われる方々、また居宅介護、訪問看護を受けられている方々へのサービス提供ができるとしています。職員の方々におかれましても、これで完成ということではないと思います。多職種間の連携を図り、自分のスキルを出し合い、職種の壁を越えて考えていきたいと思います。

一方、医療につきましても、これでいいということでは完結するものではないという方々が対象者であります。私自身もかつて経験もしてまいりました。これからも許される範囲内での必要な医療機器の整備も必要と考えています。

職場を通して、あるいは個々の立場におかれましても、今日はこんなつらいことがあった、でも〇〇さん、手が少し動くようになったね、微笑んでくれてよかったね、じっと見てくれていたよね、歯がよくなってよかったね、等々思うことが毎日の疲れを癒してくれるのではないのでしょうか。私どもに何か響くことがあれば、今日一日は幸せになれると思うのは詩的な考えでしょうか。賢者が曰く「自分が仕幸になりたいなら、他の人を幸せにしてください」何方かが感じてくだされば幸いです。

とはいえ、施設運営にはそれなりの費用を必要とします。多くの方々の助けなしには事業の継続は出来ません。時には時の政府に申したいこともあります。また、施設の存在すら知らない方もおられます。私ども一人、一人が広報マンとしての気持ちを頭の中に入れておいて下さればと思います。

年頭にあたり、おめでたい話で締めたいと思っていたのですが、世界を天井から見ると、世界はお互いの殺戮に多大な費用を割いている現況があります。できるなら、成熟した社会環境が強く望まれます。

どうぞ、皆様におかれましては今年がよい年でありますよう祈念いたします。また災害に被災された皆様におきましては、心よりお見舞い申し上げます。皆様の一日も早いご再建をお祈りいたします。

～病棟便り～

「自然を感じて」

猛暑が過ぎ、過ごしやすい季節がやってきて、屋外へ散歩に行く機会が増えました。日光を浴びたり、風を感じたりした利用者様の顔は、室内ではあまり見ることのできないような素敵な表情をされていました。喜びを爆発させたかのようなキラキラした笑顔に、職員も元気をもらい幸せな気持ちにさせていただきました。活動の意味を改めて感じた日でもありました。

コロナウイルス感染症は未だ手放しでは安心できませんし、季節外れのインフルエンザが流行したりと気の抜けない日々ですが、利用者様の健康を守りながら、日々の生活で喜びを感じ、心豊かに過ごして頂けるよう努力していききたいと思います。

看護師 長谷川



10月に入り、一気に気温も涼しくなり、夏の暑さやセミの声を懐かしく思う季節になりました。今年は、直接お会いしての面会も増えてきて保護者様と利用者様が触れ合ったり、お互いに笑顔でお話ししている姿を見られて自分自身も嬉しく思います。保護者様からお持ちいただいた衣類や玩具、ヘアケアの道具など利用者様本人も貰ったときに嬉しそうな表情が見られ、その後新しい衣類を着たり、玩具を使ってみたり、髪を整えて新しいヘアゴムを使ってみたりして再度嬉しそうな表情も見られていて、その様子にとっても心が温まります。

感染面を考慮して保護者様にも気をつけていただいている部分も多いと思いますが、ライン面会や直接の面会がある際には、日々の変化や活動を通しての様子などお伝えできればと思います。クリスマスも近くなってきたので楽しんで頂ける活動など考えていききたいと思います。

保育士 萩原

「活動を通じて」

榛名から浜川に移転後に就職し、早いもので1年半が経ちました。その間に異動もあったため、大変さもありましたが多くの利用者様と関わることができ充実した1年半でした。現在は小児のユニット配属となりましたが、日々の関りで様々な反応を見せてくれる利用者様から毎日癒しをもらっています。私も利用者様が毎日を穏やかに過ごせるように、小さな変化等に気づきケアにつなげられるようにこれからも理解を深めていきたいです。

看護師 上田

「秋を感じる」

浜川に引っ越してきて、2回目の秋がやってきました。今年の秋は少し遅れ気味で、葉っぱの色づきもゆっくりです。夏のように暑い日が続き、秋はいつになったら来るのでしょうか。みんなに紅葉を見てもらいたい、ここで写真を撮ってもらいたい、そんな利用者さん思いの1人の利用者さんと一緒に紅葉をお部屋の中に作りました。隣の浜川公園から流れ落ちてきたどんぐりと紅葉を拾って、画用紙に並べます。どんぐりも帽子をかぶっているものや緑色のものなどいろいろな種類がありました。たくさん拾って紅葉と並べて押えて、夜のライトアップをイメージして、お月様も一緒にデザインをしました。みんながいつでも見られるようにと一番目立つ廊下の前に飾りました。みんなが秋を感じられますように。

作業療法士 南雲



明けましておめでとうございます。今年も
よろしくお願い致します。

さわらび医療福祉センターに来て、早1年
が経ちました。時が過ぎるのは早いですね。

この1年利用者様とたくさんの思い出を作
ることができました。これからも利用者様が
安心安全に過ごして頂けるように心掛けなが
ら、一人ひとりの活動時間を大切に支援して
いきます。

暖冬と言われている今冬ですが、寒暖差が
激しい日があります。御身体に気を付けてお
過ごしください。

介護福祉士 野口



「夏の終わり」

夏が終わり秋の涼しさを感じる季節となりま
した。新型コロナウイルス感染症が5類へ変更と
なり、マスクのない生活へ戻りつつあります。
しかし、季節外れのインフルエンザの流行もあ
り、気が抜けない日々が続いています。さらに
今年は例年に比べ寒暖差が激しく、体調を崩し
やすい時期だと思えます。そのため今後もより
一層感染対策や体調管理に気を配り、心身とも
に健康な生活を送って行きたいと思えます。

看護師 蛭川



「食の楽しさ」

10月に入りようやくやわらかい日差しに変
わり秋を感じられるようになりました。

秋と言えば食欲の秋を思い浮かべます。私
の勤務しているユニットは経口摂取できる利
用者様が半数おられます。そこで、食に関す
る一場面をご紹介します。

ある利用者様は「今日のおかず何？」と毎
食聞いてきます。好物の献立だと満面の笑み
で「まじかー」と嬉しそうな顔を見せてくれ
ます。

毎週火曜日はおやつの日です。1口食べては
こちらを見てゴクンと喉を鳴らしたり、
ほっぺをポンポンとたたく方など、利用者様
なりの表現方法で『美味しい』を私達に知ら
せてくれます。

美味しく食べる、楽しく食べる事で心が満
たされ、日々の生活の活力が得られます。

1人でスムーズに飲み込める方は少なく、利
用者様の嚥下状態に合わせてお食事のお手伝
いをさせていただいております。これからも
食による豊かな生活が送れるよう支援してい
きたいと思えます。

看護師 吉田



「笑顔」

さわらびに就職してから早くも1年が経ちま
した。その間、2階から1階に異動があり、こ
の1年でたくさんの利用者様と関わることに
なりました。

障害の分野での仕事が初めてで、初めは戸惑
ってばかりでしたが利用者様からの温かい言葉
や笑顔など様々な反応を見る度に元気を頂いて
います。

これからもLINE面会等でご家族様とも信頼
関係を築きながら、利用者様一人ひとりの個性
を大事に、安全に楽しく生活できるように心掛
けながら支援をしていきたいと思えます。

介護福祉士 相川

「季節の移り変わり」

12月に入り寒い季節になったとはいえ寒暖差もあり、利用者様も体調を崩しやすくなる時期となってきました。

日々の気温の変化に対応できるように利用者様の体調管理に気をつけて安全に過ごすことができるように気を配っていきたいと思います。

乾燥する季節になっているので、皆さんも新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等に気をつけてください。

看護師 廣澤

「一見小さな、でもちょっと大きな発見」

入職して早くも約半年が経ちました。半袖のユニフォームで過ごすにはまだ肌寒かった春から、あっという間に残暑の厳しい秋へと移り変わってしまいました。

初めて過ごした群馬での夏は人生の中で一番暑く、冷房の効いた室内にいても、利用者様と長く触れ合っていると汗が出てくることもしばしばありました。ですが、利用者様は特に暑さを感じないのか、汗をかいている方は少ないようです。そんな利用者様と棟内を散歩する時は、必ず窓を開けて外気を浴びていただくようにしています。「暑さのお裾分け」のような意地悪をしているようにも見えなくはないですが、スタッフにとっては当然である「暑さ」を感じただけでも利用者様は様々な反応を返していただきます。いつもはしていない身振りをして「暑い」と訴えたり、「こんなに外は暑いんですよ！」と私が言うと「ああ！」と大きな声で共感してくださったり、散歩中は自ら何かに触れたりしない方が無言で窓を閉めたり。スタッフにとっては当然なことが、利用者様にとっては新鮮な発見であることは、きっともっとたくさんあるのではないかと思います。そんな「一見小さな、でもちょっと大きなできごと」を利用者様と一緒に発見して、共感して分かち合えたらいいなと思っています。

作業療法士 宮本

「日常業務の中で思う事」

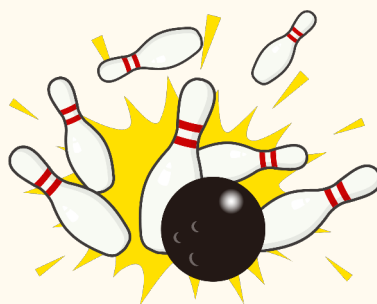
私がさわらび医療福祉センターに就職して一年間は、世間では新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていて、このセンターでも利用者様も職員も感染しましたが、職員全員が一丸となって対応にあたって何とか切り抜けました。

その後世の中の感染拡大はようやく下火になり、センターでもこの原稿を書いている時点では利用者様には発症が見られません。

ある日、個別支援での関わりの中でボーリングをした時、リビングにてボールを利用者様の手の届く所に介助し、ボールが落ちてピンが倒れた時、すごくうれしそうな声と表情を見る事ができ、私自身もすごく嬉しくなり、そんな時間を一緒に過ごす事が出来て、幸せだと思います。これからも。個別支援の関わりを通して、利用者様の変化を見られることを楽しみにし活動していきます。

また、新型コロナウイルス感染症も落ち着いて、時間制限はありましたがご家族様と利用者様の面会ができ、本当に良かったと思います。

看護師 中島



「催事」

早いものでさわらび医療センターが移転してからもうすぐ2年が経とうとしています。

榛名山町から浜川へ環境が変わっても利用者様達は毎日楽しそうな笑顔で過ごされており、特にハロウィンパーティーやクリスマスコンサートでは楽しまれている様子がみられとても嬉しく思いました。

急に寒さも厳しくなっていますので、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどには気を配って業務に励んでいきたいと思っています。

看護師 城田

「たくさんの刺激」

空が澄み、清々しい秋を感じる頃となりました。私がさわらび医療福祉センターに入職してから半年が経ちました。入職したばかりのころは何が分からないのかも分からないような不安でいっぱい、日々を過ごすことが精一杯でした。リハビリ課の先輩の皆様をはじめ、他職種の方々の親切で丁寧なご指導のもと、少しずつですが充実した日々を過ごしています。

コロナ禍の影響もあり、学生の時に臨床経験が少ない中での入職だったので、重症心身障害児・者との関わりもほとんどなかったこともあり、どのように接していいのか、自分に何かできることがあるのか、漠然と悩んでいることが多かったような気がします。しかし、毎日挨拶をし顔を見て関わりを持つ中で、もしかしたらこれは好きなのかな、苦手なのかなと段々と理解できるようになってきました。全ての利用者様が自分自身の感情を声に出し、身体を動かし、人に伝えることができるわけではありません。その中で小さな反応・変化を考え、感じ取りたいと強く思います。

利用者様の日々の生活にたくさんの発見があり、それが刺激となり、私の原動力となっています。この想いを忘れることなく、社会人として、理学療法士として成長できるように日々精進してまいります。

理学療法士 唐澤

「新たな発見」

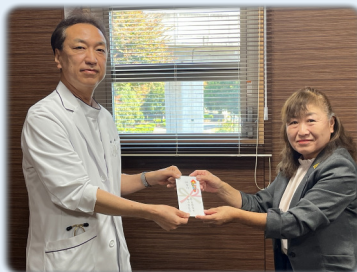
紅葉の見ごろも過ぎて日に日に冬の訪れを感じる季節となってきました。

短期入所ユニットに移動してから早一年が経とうとしています。日々、幅広い年代の利用者様と関わるなかで見せてくれた笑顔やこちらに向けてくださっている目線、本や映像あるいは人の動きに興味を示されている様子を見ると新たな発見ができ、自分自身も笑顔になります。

これからも利用者様が安心して過ごして頂けるように配慮しながら、一人ひとりとの関わる時間を大切にしながらケアにあたっていきます。

介護福祉士 中川

～寄付・寄贈のご紹介～



桑の実会様



群馬県
こんにやく組合様
・こんにやく
・しらたき
・ゼリー



・お米
・ボーロ
・フルーチェ



榛名聖公会
教会婦人会様



保護者会様
・みかん

いつもご支援を賜り、感謝申し上げます

～交通アクセス～

《県道10号前橋安中富岡線からの順路》

- ① 「井出」の信号を高崎方面(県道123号柏木沢大八木線)へ入る。
(前橋方面からの場合は左折、安中方面からの場合は右折)
- ② 最初の信号を直進。
- ③ 次の「大八木町西」の信号を直進。
- ④ 次の信号を直進。
- ⑤ 道なりに進むと右側に「さわらび医療福祉センター」の正門があります。

《市道高崎環状線からの順路》

- ① 「下小鳥町西」の信号を箕郷方面(県道28号高崎東吾妻線)へ入る。
(高崎市街地方面からの場合右折、安中方面からの場合左折)
- ② 道なりに進みY字路になっている交差点を右折。
- ③ 最初の信号を直進。
- ④ 次の信号を直進。
- ⑤ 道なりに進むと左側に「さわらび医療福祉センター」の正門があります。



こちらからHPにアクセスできます



所在地 群馬県高崎市大八木町168-1

T E L 027-361-6111 F A X 027-361-6112



社会福祉法人榛桐会
さわらび医療福祉センター

〒370-0072
群馬県高崎市大八木町168-1
T e l : 0 2 7 - 3 6 1 - 6 1 1 1
F a x : 0 2 7 - 3 6 1 - 6 1 1 2